

# 解答例

## チャレンジシート きほん

学習日 年 月 日

単元	年 組 番	6問
六年 自分の感じたことを朗読で表現しよう「やまなし」	氏 名	

国語の六年教科書111ページから112ページを読んで、次の問題に答えましょう。

一 魚が行ったり来たりする様子がわかるところを書きぬきましょう。

・上の方へ上るとき

そこらじゅうの黄金の光をまるつきりくちやくちやにして、おまけに自分は鉄色に変に底光りして

・上からもどってきたとき

こんどはゆっくり落ち着いて、ひれも尾も動かさず、ただ水にだけ流されながら、お口を輪のように円くして

二 水の中の様子が急に変わったことがわかる段落は、どの段落でしょう。段落の初めの言葉の五字を書きぬきましょう。

そ の と き で

三 天井からいきなり飛びこんできたものの様子はどんな様子のものでしたか。  にあてはまるものを書きましょう。

青光りのまるでぎらぎらする  のようなもの

青いものの先が  のように黒くどがっている

四 「二ひきはまるで声も出さず、居すくまってしまいました。」とは、どんな様子でしょう。あてはまるものに○をつけましょう。

- ( ) ( ) 水の中のきれいな様子にうっとりしている。
- ( ) ( ) おそろしさのあまり、身動きできなくなる。
- ( ) ( ) 何が何だかわからなくて、びっくりしている。



単 元		氏 名	年 組 番	3問
六年 自分の感じたことを朗読で表現しよう「やまなし」				

文章を読んで、答えましょう。

一 天井から落ちてきたものは何でしょう。

やまなし

二 天井から落ちてきたものの様子がわかるところを書きぬきましょう。

黒い丸い大きなものが、天井から落ちてずうっとしずんで、また上へ上っていききました。きらきらっと黄金のぶちが光りました。

三 なぜ、宮沢賢治は、「やまなし」という題名をつけたのでしょうか。「五月」と「十二月」を比べて感じたこと、わかったことをいれてあなたの考えを書きましょう。

五月はかわせみなどの登場から「死の世界」を、十二月は『やまなし』を登場させることで「生の世界」を表現することで、賢治の考え方や生き方を表すために『やまなし』という題にした。

そのとき、トブン。  
黒い丸い大きなものが、天井から落ちてずうっとしずんで、また上へ上っていききました。きらきらっと黄金のぶちが光りました。「かわせみだ。」  
子どもらのかには、首をすくめて言いました。  
お父さんのかには、遠眼鏡のような両方の目をあらんかぎりのぼして、よくよく見てから言いました。  
「そうじゃない。あれはやまなしだ。流れていくぞ。ついていってみよう。ああ、いいにおいだな。」  
なるほど、そこらの月明かりの水の中は、やまなしのいいにおいでいっぱいでした。  
三びきは、ぼかぼか流れていくやまなしの後を追いました。  
その横歩きと、底の黒い三つのかげ法師が、合わせて六つ、おどるようにして、やまなしの円いかけを追いました。  
まもなく、水はサラサラ鳴り、天井の波はいよいよ青いほのおを上げ、やまなしは横になって木の枝に引っかかって止まり、その上には、月光のじがもかもか集まりました。  
「どうだ。やっぱりやまなしだよ。よく熟している。いいにおいだろう。」  
「おいしそうだね、お父さん。」  
「待って待って。もう二日ばかり待つとね、こいつは下へしずんでくる。それから、ひとりでおいしいお酒ができるから。さあ、もう帰ってねよう。おいで。」  
親子のかには三びき、自分らのあなに帰っていきます。  
波は、いよいよ青白いほのおをゆらゆらと上げました。それはまた、金剛石の粉をはいているようでした。

私の幻灯は、これでおしまいであります。